

## <白金標準先物、目先 CPI の結果を待つ調整安の場面・・・>



(出所：オアシス)

WPIC が発表した第 2 四半期 PGM 需給報告では、2022 年のプラチナ需給予想は 30 トンの供給過剰と第 1 四半期の 19 トンの供給過剰から上方修正している。しかし報告では中国の特定できる需要を大幅に上回る輸入が復活しており、主にプラチナ ETF および取引所在庫からの 20 トンの大規模な流失によってカバーされ、公表されている需給データには反映されていないこうした中国の輸入余剰は、プラチナ現物市場を逼迫させ、リースレートが 10% を超える動きで示されている。

そのため WPIC の報告を受けた NY 白金は、800 ドルから 880 ドルまで上昇を強めている。しかし ECB 理事会の 0.75% の利上げ実施や中国の 49 都市でゼロコロナ対策から一部または全部の閉鎖を受けた景気減速懸念を受けて 3940 円で高値が止まっている。

特にドル相場で ECB 理事会の大幅利上げ実施を受けて、今週の CPI の発表も前月から前年比は低下の予想であり、FOMC までドル買いの根拠が低下すると従来の円安で押し上げられた白金標準先物の価格は、目先調整安の値動きを示す確率が高まると見え、3800 円までの下値追いには注意したい。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では MACD が上昇し、シグナルも上昇している。RCI では短期が上昇し、長期も反転するなど強気を示唆する動きを見せている。ただ移動平均線の 10 日、40 日移動平均線と日足が乖離しており、目先 3800 円に向けた調整安に備える方が妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,746,000円(2022年9月12日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復37,620円(2022年9月12日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-3249-8827(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>